

全国里親会

東日本大震災 現地調査活動報告会

平成23年4月9日（土）
午後1時～午後4時

会 場 日本財団 大会議室
東京都港区赤坂1丁目2番2号 日本財団ビル

主 催 （財）全国里親会

目 次

1. 「子ども救援」被災地調査報告.....	1
2. 東日本大震災現地調査報告.....	5
3. 被災した皆様へ・里親家庭を子どもの避難場所としてお使いください.....	15
4. 新聞切り抜き.....	17

「子ども救援」被災地調査報告

1. 調査期間 2011年3月26日(土)～3月29日(火)の4日間

2. 派遣者 木ノ内博道、竹中勝美

3. 目的

東日本大震災後、全国里親会では子ども救援の可能性を模索してきた。まず、地域の里親会に、震災にあった子どもたちを何人くらい受け入れられるかの調査を行った。全国で2600人余の受け入れが可能なが分かった。次に「大震災子ども救援基金」を開設。募金活動を開始した。

しかし、被災地の子どもたちの現状や全国里親会でどのような救援活動を行えばよいのか、なかなか見えてこない。現地調査の必要を感じた。

里親が被災児童を受け入れるには2種あるだろうと考えられる。児童相談所を通じて保護者が犠牲になったケース。これへの対応は行政の役割である。措置児童に対する救援以外に、里親会の活動としては「保護者はいるが復興や仕事探しなどで養育が一時的に困難なケース」に民間として救援活動を行うことがあげられる。幸い、こうした養育方法に日本財団が経済的支援をしてくれることになっている。

- ・被災地の子どもたちの現状を把握すること
- ・民間として子ども救援の可能性を探ること
- ・現地に救援の窓口の開設が可能かを検討すること
- ・被災地の里親の現状を把握すること

4. 活動の概要

<3月26日(土)>

8:00 レンタカーを借り、物資などを調達(若狭さんからガソリン80Lの寄付を受ける・お菓子など寄付する物資の購入・幟などを用意)。12:00過ぎ、東京から宮城県のファミリーホーム協議会代表のト蔵さん宅を訪問(着18:00)。翌日以降の行動計画を話し合う。

<3月27日(日)>

7:30 宮城県里親会会長伊藤氏に会う

自衛隊緊急車両による渋滞、道の陥没などで伊藤さん宅に行けず、途中で落ち合う。県里親会の動きを聞く。4支部で連絡を取り合いながら被災エリアの子どもたちの受け入れを検討している。会長宅は被災地エリアにあり動けないので、多賀城市に住む副会長・大枝氏が中心になって活動しているとのこと。午後1時に会うことにする。

9:00 宮城県社会福祉協議会（ボランティアセンター）訪問

ボランティアセンターの北川氏に会う。避難所は撤収の方向にあり、かわりに各地にボランティアセンターができつつある。宮城県被災地のボランティアセンターマップをもらう。

10:00 仙台市社会福祉協議会訪問・仙台市里親会会長佐藤氏と会う

仙台市里親会の現状を聞く。里親の被害状況は調査中。被災した子どもの受け入れが可能な里親家庭は17世帯。被災した子どもの情報収集、また被災地全体の避難所に全国里親会の「保護者がいる場合でも受け入れることができる」という案内をするのは難しいと判断。報道関係との連携の重要性を考える。

11:00 河北新報訪問

佐藤会長とともに河北新報を訪問。記者勅使河原さんに趣旨を伝える。勅使河原さんからは、具体的なケースが出た場合は教えてもらいたいと要望あり（翌日記事掲載）。仙台市から多賀城市に移動。

13:00 （NHK 記者同乗）宮城県里親会副会長大枝氏と会う

これ以降、NHKの記者が同乗し回るようになった。

・大枝副会長宅を訪問

宮城県里親会の取り組みなどを聞くべく訪問。県里親会の会員は54世帯。25世帯に問い合わせができた。12世帯が被災児童（19人）の受け入れが可能とのこと。大枝氏は多賀城市役所のOB。市町村の現状に詳しく、被災地の現状を知るのは市町村の役場を回って全国里親会の取り組みを知らせるのがよいとのアドバイス。これ以降市役所・町役場を中心に回ることとした。

・多賀城市市役所・子ども福祉課訪問（これ以降、大枝氏、NHK 記者同乗）

おもに全国里親会の取り組みを説明。

・多賀城市文化センター・避難所訪問

副代表に全国里親会の取り組みを話し、お菓子などを寄付。

・多賀城市の被災した里親宅を訪問

里親で多賀城市に住む沖ノ井さん宅を訪問。1階部分が津波で浸水。2階で生活している。受託している里子がいるが措置解除は考えていない。子どもに勇気をもたらしていると話していた。むしろ被災してきずなが深まっている感じ。浸水は押し入れのちょうど真ん中あたりまで。どぶの臭いがひどい。それにしても笑顔が絶えず明るい対応。大枝さんとの会話は方言のせいであまり分からない。お菓子などを寄付。

・塩竈市役所子育て支援課

・松島町役場子育て支援課

・東松島市役所子育て支援課

・石巻市役所子育て支援課

被災した海岸線を北上。市役所や町役場の子どもの関連の部署を訪ね、全国

里親会の活動を説明。

- ・大枝氏、NHK 記者を送り岩手県盛岡市に向かう

ガソリンがなくなりつつあり、高速サービスエリア 2 か所で 1 時間待ち 20L、1 時間半待ち 5000 円分とガソリンを入れながらの移動。盛岡駅着は 12 時過ぎ。天理教岩手教務支庁に宿泊予定だったがホテルルートインに投宿。

<28 日 (月) >

- 9 : 00 岩手県社会福祉協議会 (岩手県里親会長高橋会長、副会長藤原さん、他に会う)

岩手県里親会の高橋会長、藤原副会長、社協の里親担当職員に会う。課長にあいさつ。高橋会長は息子さんのディーゼルエンジンの車を借りてきており、被災地までは距離があるが同行していただくようお願いした。岩手県里親会としては 36 世帯が被災した子どもの受け入れが可能とのこと。

- 10 : 30 岩手県中央児童相談所訪問 (これ以降、高橋会長、藤原さんと同行)

所長はじめ対応。全国里親会の取り組みを説明、協力依頼。

- 11 : 20 天理教岩手教務支庁 (松村氏) を訪問

全国里親会の取り組みを話す。これ以降、被災地の市役所を回って全国里親会の取り組みを話す。盛岡市から大船渡市に移動。

- 14 : 45 大船渡市役所訪問 (岩手日報と接触)

- 16 : 00 高田一中に作られた陸前高田市仮庁舎福祉課・避難所を訪問

- 19 : 00 気仙沼市役所児童福祉課訪問

- ・仙台市内に移動

<29 日 (火) >

- 10 : 00 朝日新聞仙台支社訪問

全国里親会の取り組みを話す。

- 11 : 00 宮城県中央児童相談所訪問

ト蔵氏、大枝氏、NHK 記者と県中央児童相談所を訪問。全国里親会の取り組みへの協力依頼。

- 12 : 00 読売新聞東北総支社

- 12 : 30 毎日新聞仙台支局訪問

・東京に移動 (ガソリンを寄付していただいた若狭さん宅によりガソリンの空き缶返却、お礼)、7 時にレンタカーを返す。

5. 活動結果

被災地の状況：地震の被害は比較的少なく (瓦が落ちたり壁のひび割れ程度、家屋の倒壊は特に見られなかった)、それに比べて津波の影響は甚大。被害は海岸線に集中しており、同じ県のなかで救援に回れる部分もある。

避難所の状態：昼間に訪問したこともあり避難所にはお年寄りばかり。子ども

などの姿はなかった。避難所代表などとの接触はできるが避難している人との接触は難しそう。

被災したある里親：がれきの片付けで忙しい。避難所の利用で軋轢があるもよう。しかし子どもの養育は可能。

里親会の動き：被災した地域の里親の状況は十分把握できていない。それ以外の里親は被災した子どもの受け入れが可能。しかし里親会の会長を中心とした被災児童の受け入れ窓口を開設するのは簡単ではなさそう。

被災地の市役所・町役場：県庁と違い生活の場に近いので混乱している。本来であればこの支援が重要。陸前高田のように市庁舎そのものが被災したところもある。市役所が避難所になっているところもある。

児童相談所：被災地の子どもたちの状況把握には至っていない。全国里親会の取り組みに理解を示し、協力すると確約。

マスコミの動き：被災地の子どもに関心をもっているが情報がまったくない状況。全国里親会の取り組みに一定の評価がある。

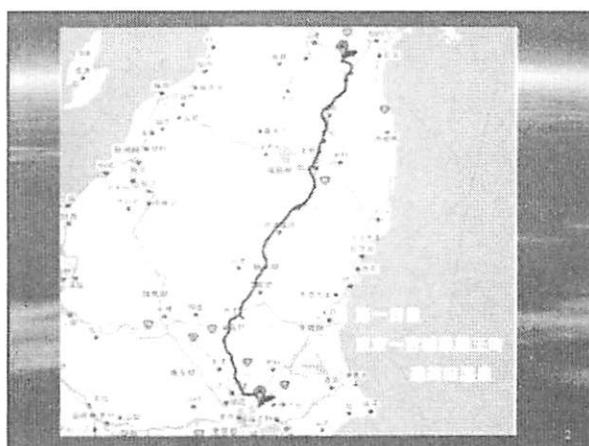
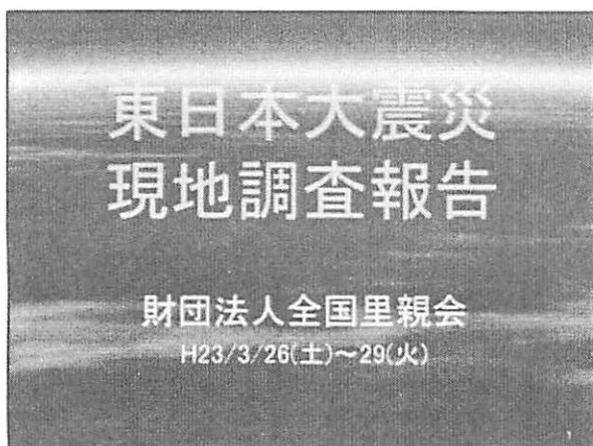
6. 総合的にみて

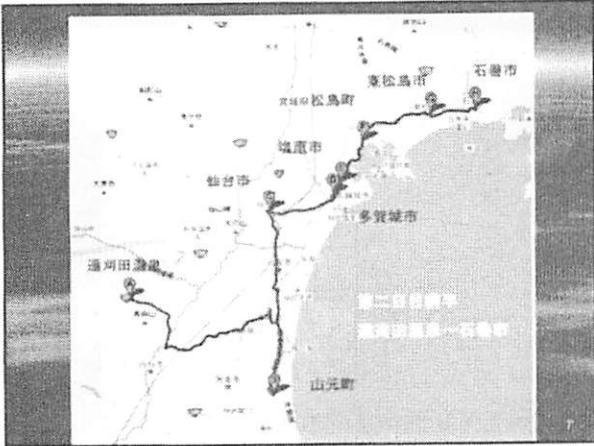
保護者をなくした子どもについては行政の役割であり、里親はそうした子どもの委託を受ける後方支援としての役割を担っている。しかし、保護者がいても養育が困難となるケースについては民間が担えと考えると活動した。

被災地から保護の必要な子どもが出てこない状況を考えると、被災地近くの友人の家や親せき之家に暮らしている可能性が高い。行政が保護児童として保護する方法以外に、こうした家庭を支援する必要があるのではないだろうか。

厚生労働省のチームが避難所の聞き取りに入っているので、その結果を待ちたい。また、現地では学校の始業式が5月連休明けになりそうであり、始業式の始まるころに子どもの救援が具体化することも考えられる。

以上





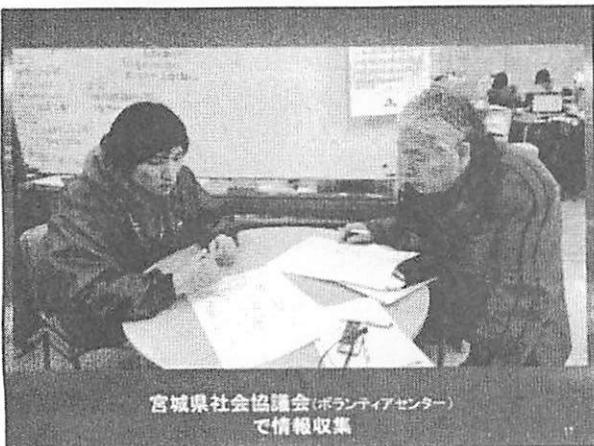
山元町で突然の大法落
5分ほど動かず



宮城県里親会会長伊藤さんと
路上で打合せ
ガソリン20リットル補給する



仙台東部道路で仙台市に向かう
右側は仙台湾

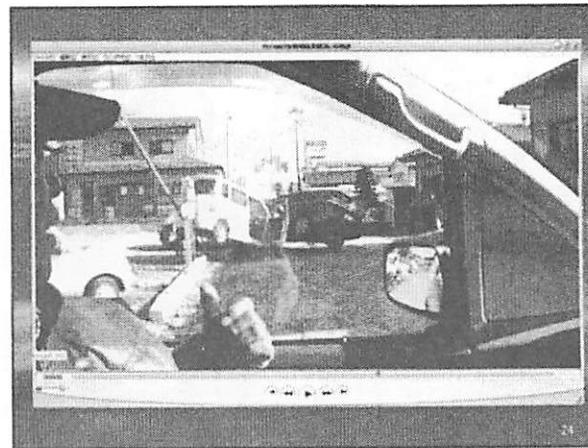


宮城県社会協議会(ボランティアセンター)
で情報収集



仙台市社会協議会で仙台市里親会
会長佐藤さんと打合せ
子どもの受入可能な家庭は









石巻市市街

35



32

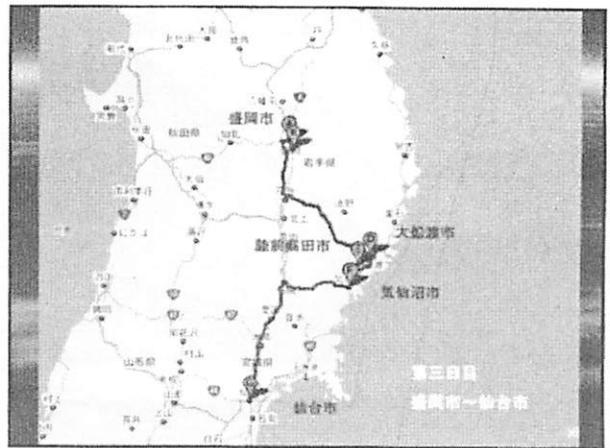


石巻市役所

37



34





岩手県社協にて
県里親会 会長高橋さん、
副会長藤原さんと打合せ



岩手県中央児童相談所
所長は全面的に協力するとのこと



大船渡市市街地



大船渡市の臨時駐車場にて



大船渡市の臨時駐車場にて
岩手日報の取材を受ける

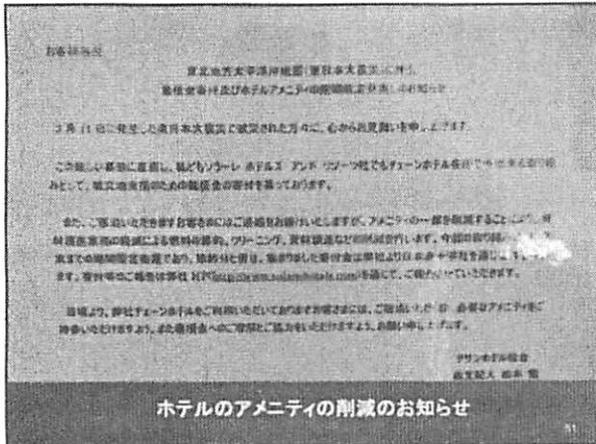




気仙沼市役所 児童福祉課



第11回
仙台市一環



ホテルのアメニティの削減のお知らせ



朝日新聞仙台総局



仙台市内のファストフード店は軒並み休業



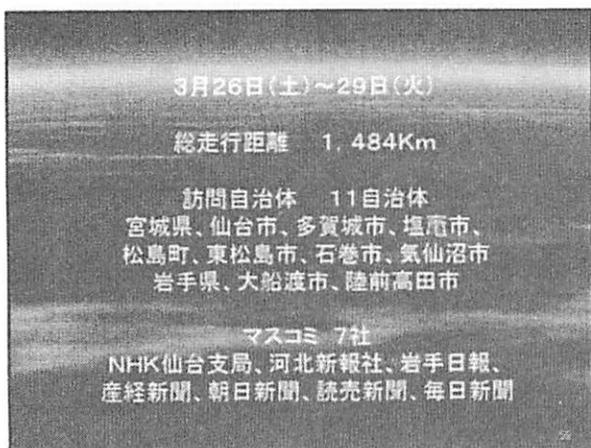
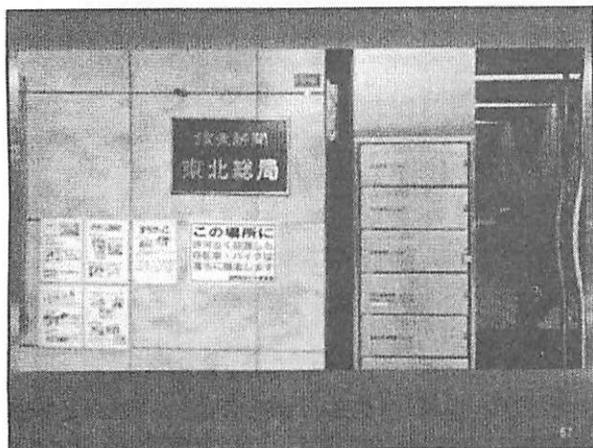
宮城県中央児童相談所



宮城県中央児童相談所待合室のポスター



宮城県中央児童相談所山崎署長に面会



被災した皆さまへ・里親家庭を子どもの避難所としてお使いください

私たちは財団法人全国里親会から派遣されてきました。保護の必要な子ども、保護者が復興活動のため忙しく一時預かってほしい場合などの、受け皿となることが可能です。

震災後、各地の里親会を通じて、被災家庭の児童を受け入れることが可能な里親数を緊急調査したところ、49都道府県・市で1539世帯、うち2人以上受け入れることができる里親家庭が1010世帯との回答が寄せられました（子どもの受け入れ総数2549人以上、3月23日現在）。また、ファミリーホームにおいては29ホーム、88人の受け入れが可能です。

親がいない保護の必要な子どもについては、児童相談所を通して里親委託や児童養護施設への入所となります。私たちは民間の活動として、それ以外の、保護者がいても一時的に預かってほしい子どもについての要望に応えます。ぜひ、実情をお聞かせ願えればと思います。

財団法人全国里親会 〒107-0052 東京都港区赤坂 9-1-7-857 (☎03-3404-2024)

Fax 03-3404-2034 E-mail info@zensato.or.jp <http://www.zensato.or.jp/>

派遣スタッフ 全国里親会理事 木ノ内博道 090-2251-4209

同スタッフ 竹中 勝美 070-5517-0160

1. 保護者がいて特に保護の必要のない子どもであっても、一時的に預かってほしいという要望はありますか。
2. 一時的に預ける子どもの希望先はどこでしょうか。（親戚・里親・児童養護施設・その他）
3. お預けする場合、どのくらいの期間になりますでしょうか。（概略）
4. お預けする場合に不安なことはありますか。（健康状態・治療・送迎・経済的なことなど）
5. 被災した子ども全般にどのような支援が必要だとお考えでしょうか。
6. その他、どんなことでもお書きください。（書ききれない場合は、裏面にお書きください）

記入欄

震災遺児の里親に

企業や私学も名乗り 各地で動き

震災で親を亡くした子どもたちの居場所を確保しようと、被災地の児童相談所や里親会などが動き始めた。企業や学校もサポートに名乗りを上げる。ただ、遺児たちが住み慣れた地域から離れることを心配する声もある。

震災による遺児の数はまだはっきりしない。

こうした中、虐待を受けるなど、家庭生活ができない子どもを家に迎え入れて養育する里親の組織、全国里親会(03・3404・2024)

は震災後、各地の里親会を通じて受け入れ可能な里親の数を調査。1671家庭で計2700人超を受け入れられる見通しだ。

会は被災した8市町を訪れ、保護者がいてもいなくても預かる準備があることや、養育費の負担がないことを自治体担当者に伝えた。清水啓司・事務局長は「友達同士で来たいという要望も受けた

い」と話す。

仙台市の児童相談所も、一時保護所で最大40人の遺児が宿泊できる準備を進める。普段は使っていないプレールムに布団や暖房器具を置き、市や県外の自治体の協力を得て保育士を派遣してもらうことを検討中だ。

全国で保育所を運営するJPホールディングス(名古屋)市は、社員からボランティアの一時里親を募り、遺児の乳幼児を受け入れる。日中は同社の保育所で、夜と休日は社員の家庭で預かり、里親になった社員には養育費を補助する。専門家の保育士が里親になる利点があり、100人

超の社員が手を挙げた。山口洋社長は「両親が行方不明になっているような緊急のケースがあるのでは」とみて、被災地の自治体に打診している。

富山市の片山学園高校も、両親を亡くするなどした生徒を30人まで学生寮で受け入れる。寮費や学費は免除。週末は教職員らの家庭で過ごす里親制度も導入する。

遺児以外への動きもある。NPO法人「チェルノブイリへのかけはし」(札幌市、011・511・3680)は福島第一原発付近の子どもの受け入れを検討。チェルノブイリ原発事故では、被災した子らの里親活動を展開、19年間で648人を預かった。野呂美加代表(47)は「福島で現地調査し、親も含めて避難した方がいいと考えた」。

「血縁・地縁大切」

兵庫県の調査では、阪神大震災で親が1人もいなくなった子どもは県内で68人、片方の親を亡くした子どもは332人いた。大半が親族に引き取られるか、残った親と生活した。県児童課の担当者は「親族が非被災地において、預かることができたからではないか。今回は被災地域に親族が固まって住んでいるケースもあるだろう」とみる。

一方で、親を失った子が地

域からも引き離されているのだろうか。慎重さも必要だ。里親に詳しい京都府立大の津崎哲雄教授は「子どもに二重の喪失を与えてはいけない」と指摘する。「親族、近所の人、両親の知人の三つの可能性をまず探る。子どもの喪失感を癒やされるのは何が一番か知意を絞り、引き受けた親族らの支援として手当を出すべきだ。今なら、時限立法としてできるのではないだろうか」

(中塚久美子、田中京子)



震災遺児への募金活動をする学生ら。インド洋大津波で家族を亡くした若者も参加した。神戸市、中塚久美子撮影。

東日本大震災の主な被害と交通状況

※死者数などは警察庁(2日午後8時現在)、交通状況は国交省などまとめ。記事中の数字と違う場合があります

岩手県

- 死者: 3518
- 行方不明者: 4513
- 負傷者: 130
- 避難者: 4万1975

宮城県

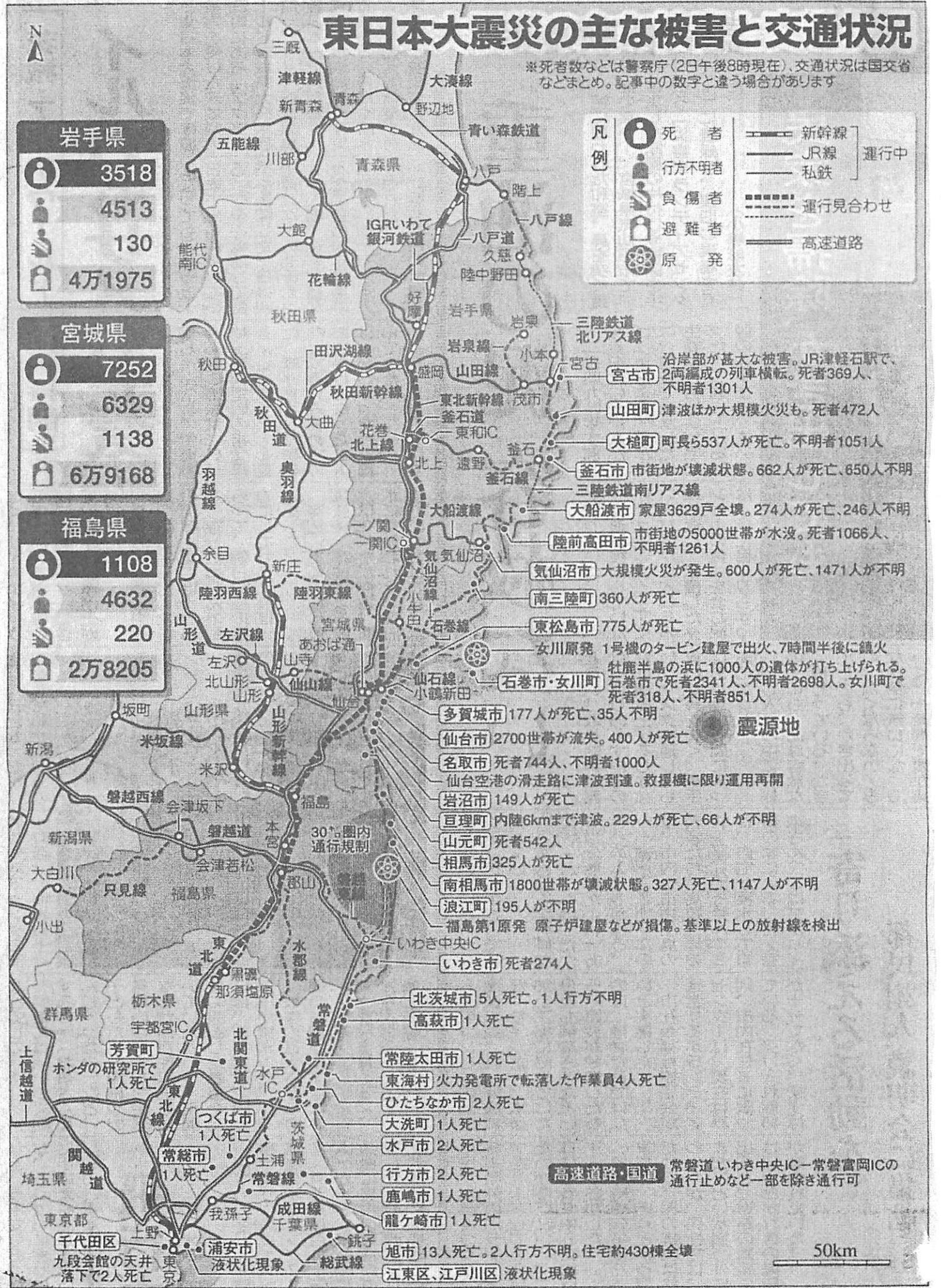
- 死者: 7252
- 行方不明者: 6329
- 負傷者: 1138
- 避難者: 6万9168

福島県

- 死者: 1108
- 行方不明者: 4632
- 負傷者: 220
- 避難者: 2万8205

(凡例)

- 死者 (人形)
- 行方不明者 (人形)
- 負傷者 (人形)
- 避難者 (人形)
- 原発 (放射線)
- 新幹線 (線)
- JR線 (線)
- 私鉄 (線)
- 運行中 (線)
- 運行見合わせ (線)
- 高速道路 (線)



- 宮古市** 沿岸部が甚大な被害。JR津軽石駅で、2両編成の列車横転。死者369人、不明者1301人
- 山田町** 津波ほか大規模火災も。死者472人
- 大槌町** 町長ら537人が死亡。不明者1051人
- 釜石市** 市街地が壊滅状態。662人が死亡、650人不明
- 大船渡市** 家屋3629戸全壊。274人が死亡、246人不明
- 陸前高田市** 市街地の5000世帯が水没。死者1066人、不明者1261人
- 気仙沼市** 大規模火災が発生。600人が死亡、1471人が不明
- 南三陸町** 360人が死亡
- 東松島市** 775人が死亡
- 石巻市・女川町** 女川原発 1号機のタービン建屋で出火、7時間半後に鎮火。牡鹿半島の浜に1000人の遺体が打ち上げられる。石巻市で死者2341人、不明者2698人。女川町で死者318人、不明者851人
- 多賀城市** 177人が死亡、35人不明
- 仙台市** 2700世帯が流失。400人が死亡
- 名取市** 死者744人、不明者1000人
- 仙台空港の滑走路に津波到達。救援機に限り運用再開
- 岩沼市** 149人が死亡
- 亘理町** 内陸6kmまで津波。229人が死亡、66人が不明
- 山元町** 死者542人
- 相馬市** 325人が死亡
- 南相馬市** 1800世帯が壊滅状態。327人死亡、1147人が不明
- 浪江町** 195人が不明
- 福島第1原発 原子炉建屋などが損傷。基準以上の放射線を検出
- いわき市** 死者274人
- 北茨城市** 5人死亡、1人行方不明
- 高萩市** 1人死亡
- 常陸太田市** 1人死亡
- 東海村** 火力発電所で転落した作業員4人死亡
- ひたちなか市** 2人死亡
- 大洗町** 1人死亡
- 水戸市** 2人死亡
- 行方市** 2人死亡
- 鹿嶋市** 1人死亡
- 龍ヶ崎市** 1人死亡
- 旭市** 13人死亡、2人行方不明。住宅約430棟全壊
- 江東区、江戸川区** 液状化現象

高速道路・国道 常磐道いわき中央IC-常磐富岡ICの通行止めなど一部を除き通行可

50km